

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270800311		
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社		
事業所名	グループホームバンドー下北		
所在地	〒035-0051 青森県むつ市新町32-15		
自己評価作成日	平成30年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「親孝行」という理念のもと、事業所独自の理念を作成している。ホールに掲示するなどし確認することで、スタッフも共有し日々のサービスに反映出来る様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し行事参加する等の交流を図っている。運営推進会議等により町内会長、民生委員へ働きかけ、グループホームを理解して頂けるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、家族や地域の方々、民生委員等に、グループホームの生活状況や対応等、実例を用いて支援の方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、市役所職員、地域包括センター職員、地域の民生委員、町内会長等に参加して頂き2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの現状や評価結果を報告し、委員から積極的に意見を出してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報誌、パンフレットの配布を行っている。その他に評価結果を報告する等、行政との連携が図れるよう働きかけを行っている。市の介護福祉課にも出席して頂き、意見等頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容やその弊害について、年に1回勉強会を行い理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束ゼロ対策委員会も定例開催し、意識を高めている。見守りや会話の中で、外出の希望を察知した際は、職員が付き添い戸外へ出かけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて虐待の理解をし、全職員は高齢者虐待が重大な事だと認識している。防止の目的で、虐待の種類について、職員の目につくところに掲示している。また、管理者は虐待を未然に防ぐよう職員のケアに目を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、スタッフ全員が理解を深めている。利用者が成年後見人を立てて実施している方がいる。必要時には、活用出来るよう支援していく事としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づいて、理念やケアの方針等を丁寧に説明を行い、利用者や家族の疑問に対応している。退居時には利用者や家族に理由等を説明し、家族が戸惑う事の無いよう細やかに情報提供する等の支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日頃のコミュニケーションの中で対応するとともに、家族からの意見も随時受付している。家族からの意見等も尊重し、更に利用者とのコミュニケーションの中に取り組みせて頂いている。また、法人本部より要望受付に関する文書を送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を日々の業務の中やカンファレンス等で聞くようにしている。又、グループホーム事業部の統括ケアマネージャーが、その意見を集約したものを運営者に提案したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームの統括ケアマネージャーを通じて、現場の状況・職員の努力、勤務状況を把握している。キャリアパスや介護職員の処遇改善を行って職員に向上心を持たせるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を年12回実施している。外部研修は、1年に1回は職員のスキルアップの為に参加してもらっている。外部研修がある際は周知させており、参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム管理者が集まり、毎月会議を開催し情報交換している。また、その内容を全職員に周知している。外部研修等においては、同業者や介護事業関連の方と交流して意見交換するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞き、希望や意向等を把握するよう努めている。話しにくかったりしている時は、こちらからアプローチして話を聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞き、希望や意向等を把握するよう努めている。話しにくそうにしている時は、こちらからアプローチをして話を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族からの意向を十分に踏まえ、希望に沿った支援を見極めて対応を行っている。すぐに対応出来ない時は方策を検討し、徐々に支援していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションが大切であることを認識しており、日々利用者の視点に立ち、一緒に見る、聞く等をして一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、利用者の状態、日々の変化を伝え、ケアに関しても随時報告している。伝える他に、家族の意向等を聞き、一緒に利用者を支えていく関係を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方等にも気軽に面会に来て頂いたり、電話や手紙等で連絡出来るように支援を行っている。また利用者の希望に応じて、馴染みの場所や知人がいる所に行けるよう、職員もしくは家族の協力を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立しないように職員が間に入り、支え合いながら生活を送っていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も利用者や家族との築いてきた関係を継続していけるように努めており、利用者や家族にもその旨を伝えている。必要に応じて法人の系列のサービス資源等、活用頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、相談等を傾聴し、本人の立場になって、意向の把握に努めている。必要に応じて家族や関係者からも情報を得て、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人及び家族から生活歴や個性等の情報を得て把握に努めている。普段の生活でも活かせるように、利用者のプライバシーに配慮しながら親戚や知人からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活習慣で、出来る事、出来ない事等を把握し、変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の意見や希望を聞き、職員間で話し合いを行って作成している。介護計画には実施期間を明示しており、期間終了時に見直しを行っているが、状態変化が見られた時も都度見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や身体状況等について個人ケースに記録の他、日誌にも記載し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助をドライバーと職員で行っている。身体状態が重度化した場合、家族の希望に応じて法人内の有料老人ホームへの入居ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、町内会長や民生委員、教育機関に呼びかけを行っている。児童の職場体験訪問や避難訓練等に協力して頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医に受診し、本人の状態の把握、連携を図っている。受診後、家族にも説明を行ったり、必要・希望時には家族と職員と一緒に受診に行くようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に常勤看護師がおり、相談しながら日常生活の健康管理、適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は随時管理者が状態確認を行い、病院関係者及び家族と情報交換を行い、早期退院に向けて努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所としての重度化や終末期の対応についての方針を明確にし説明を行っている。急変や状態の変化の際、対応できる事、困難な事を職員間で話し合っている。又、家族にも説明し理解して頂くと同時に、利用者や家族の意向を踏まえ医療機関と連携を図り支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり掲示されている。救急救命の研修・受講も行き、日頃から応急手当や緊急時対応等出来るよう、自主的に訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練を年2回行っている。地域の協力もあり、災害時の避難場所を確認できている。災害に備え、食料やランタン等を備蓄するとともに、同市内にある法人の施設との協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー確保に関する「介護サービス従事者業務水準の指針」を作成しており、年に1回研修を行っている。利用者の誇りを傷つけないよう声かけや対応に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせ説明や声掛けを工夫し、意思表示出来るよう場面作りをしている。意思表示出来ない場合でも、表情や態度から把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や身体状態に合わせ、本人に合ったその日のペースで過ごせるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容の乱れは職員の方でさりげなくサポートし、自分らしいおしゃれが行えるよう支援している。二ヶ月に一度美容室の訪問があり、希望する方がカットを行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞いたり、季節の食材を取り入れたりしている。又、利用者から作り方を教わったり、一緒に調理を行っている。毎食時、職員も一緒にテーブルに着き会話を楽しみながら食事をし、後片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量や個々の体調に合わせた一日の水分摂取量を記録し把握している。栄養バランス等を考えながら食事提供している他、法人の栄養士に献立をみてもらい、栄養バランス等改善に向けた助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯洗浄等を、個々に合わせて声掛け・一部介助にて行い、口腔内の清潔を保つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録、把握しており、自分でトイレへ行けない利用者は時間をみて誘導し、失禁にならないように努めている。汚染時は羞恥心に配慮し、速やかに対応不快を取り除いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす身体への影響を理解しており、食事で食物繊維が多い物を使用したり、水分補給や散歩等で軽い運動を促し、自然排便が出来るよう工夫している。下剤服用している利用者は状態を見て薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望を聞き、羞恥心に配慮しながら入浴の支援をしている。一人ひとり入浴時間は違うので、本人に確認しながらゆっくり浸かって頂いている。拒否が見られた時は職員を変え声掛けを行ったり、時間をずらす等の対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその時の状態に応じて休息できるよう配慮している。夜間の睡眠状態、日中の状態を把握し、家族や主治医と相談をし、必要がある際は眠剤を服用したり量の調整により、安眠できるように支援している。寝付けない時は、職員が話し相手になったり水分等を勧める等し、様子を見て眠れるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ケースにファイルしている他、薬手帳も使用しており、薬の目的や副作用等の把握に努めている。状態変化等がある時はすぐに主治医・家族に報告・相談、記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や希望を把握し、一人ひとりに合った役割や活動が行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節による外出行事を行ったり、利用者の希望に合わせ、買い物や気分転換に出かけられるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っているが、可能な方は家族と相談の上、所持してもらっている。買い物時、なるべく自分で支払いを行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に来る電話や手紙は取次ぎを行っている。手紙を書いたり、電話をする場合は出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、心地良い共用スペースを保てるように工夫している。ユニット内を季節に合った装飾にする他、外の景色も楽しめるように取り組んでいる。温度・湿度も定時に確認し、調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中で、利用者同士で楽しめるスペースを設けている。また、話が合う人同士お互いの居室を行き来し会話を楽しんだりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、馴染みの家具や愛用している物を持って来て頂けるように家族に働きかけている。また、必要な物を一緒に買い物に行くなどし、居心地の良い居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態や希望に合わせ、ベッド柵や手すりをつける等の対応をし、安全かつ、自立した生活が送れるよう支援している。		